

リトアニア政治・経済月間情勢(7月)

概況

- リトアニアのEU議長国が開始。大統領、首相、外相をはじめ各閣僚が議長国リトアニアの優先事項について国内外で説明を行うと共に、東方パートナーシップ首脳会合で具体的成果を達成するための活発な外交を展開。ビリニュスでは5つの非公式大臣会合が開催された。
- 労働党の不正経理裁判に関しウスパスキフ前党首等4人に有罪判決が出されたが、連立与党は連立に変更がないことで合意。有罪判決により労働党の支持率は低下し、野党祖国同盟が同党を上回り社会民主党に次ぐ2番目の支持率を獲得した。
- 経団連ヨーロッパ地域委員会一行が来訪し、大統領、首相、外相、経済副大臣、リトアニア産業連盟代表等と会談。日・リトアニア双方より二国間のビジネス協力強化に向けた期待が示され、今後の両国経済関係の促進に繋がる事が期待される。

内政

【2日】昨年の総選挙で選挙違反を犯したとして中央選挙管理委員会の指示に基づき労働党候補名簿から削除された4人について、その後の検察当局の捜査の結果違反の事実がなかったことを受け、国会は名簿復帰を承認。

【4日】国会春季会期が終了。会期中54の本会議が開かれ、230本の法案を可決し、90の決議が採択。秋季会期は9月10日に開始。

【10日】グリボウスカイト大統領は就任4周年に際する記者会見で、現政権は戦略的な決定の大部分を先送りし、公約と計画の段階から抜け出せないと批判。

【12日】労働党の不正経理裁判に関する判決が行われ、ウスパスキフ前党首、ガプシス国会副議長、ボンジュタイテ議員等4人に有罪判決。労働党については、労働者党との合併により新たな法的主体となったため、責任追及は回避された。14日、プトケビチュウス首相は、ガプシス副議長は控訴が終わるまで副議長職を一時停止すべきとの社会民主党の立場を発表。15日、連立与党4党は、有罪判決に関わらず連立に変更はないことで合意。ウスパスキフ前党首は判決直後の13日にロシアへ出国(29日に帰国)。31日、有罪判決を受けた4人はビリニュス地裁の判決を不服として控訴し、他方検察側も厳刑を求め控訴した。

【22日】支持率調査で、労働党の不正経理裁判で有罪判決が出たことを受け、ウスパスキフ前党首、ガプシス国会副議長及び労働党の支持率は低下。秩序と正義党及び野党祖国同盟は支持率を伸ばし、祖国同盟は選挙直後から下がった支持率を回復し、社会民主党に次ぐ2番目の支持率となった。政治家に対する支持については、グリボウスカイト大統領、次いでプトケビチュウス首相が他を大きくリードする状況に変化はなし。

【27日】ビリニュス市中心部で同性愛者(LGBT)の権利平等を主張するバルティック・プライド・ゲイパレードが開催され、約500人が参加。LGBT反対者も集合し、物々しい警戒態勢がとられ、グラジューリス秩序と正義党議員を含む28人が逮捕されたが、行進は概ね平穏に行われた。開催場所を巡っては、パレード主催者とビリニュス市の間で事前に裁判が行われた。

外交

【1日】ザグレブを訪問中のグリボウスカイト大統領は、クロアチアのEU加盟式典へ出席。ヨシポビッチ・クロアチア大統領へ祝辞を述べ、背番号28のバスケットボール・ユニフォームを贈呈。

【1日】グリボウスカイト大統領は、リトアニアのEU議長国就任に際し、責任があり大きな挑戦となる任務だが、リトアニアを宣伝する良い機会との国民向けメッセージを発出。首相府前では議長国開始を記念

する国旗及びEU旗の掲揚式典が開催され、政府関係者、外交団及び市民が参加(白石大使出席)。4日には国会で議長国就任特別会合が開催され、グリボウスカイテ大統領、ゲドビラス国会議長、プトケビチュウス首相始め閣僚、国会議員等が出席。アイルランド、エストニア、クロアチア、ラトビア、ポーランド国会議長他が来賓として出席し、EU議長国トリオのバレット・アイルランド下院議長、ゲドビラス議長、パパイオアノウ・ギリシャ国会事務総長がビリニウス宣言に署名した。

【1日】リンケビチュウス外相は、米当局によるEU機関通信情報収集疑惑事件に関し、真相解明が重要であり、これにより強固なEU・米関係が損なわれてはならないと発言。4日には、EUは米国との自由貿易協定を人質とすべきではなく、両者間の戦略的パートナーシップは双方に重要と強調。2日、グリボウスカイテ大統領も、この事件と米・EU自由貿易協定交渉は別個の問題であり、交渉に直接的な影響があってはならないと発言。

【1日】オレカス国防相は、当国訪問中のアラサニア・グルジア国防大臣と会談し、アフガニスタンでの協力、国防省主催の東方パートナーシップ関連セミナー、東方パートナーシップ首脳会合、グルジアの司法改革等につき協議。改正二国間防衛協力協定に署名した。

【2日】グリボウスカイテ大統領は仏を訪問し、オランダ仏大統領と会談。両国間関係、エネルギー、雇用対策、東方パートナーシップ首脳会合の準備等に関し協議した。

【3日】グリボウスカイテ大統領はストラスブールを訪問し、欧州議会でリトアニア議長国の優先事項について説明し、迅速な決断に向けた欧州の団結が必要と強調。

【3日】グリボウスカイテ大統領は、ベルリンでのEUの若年層失業対策に関するハイレベル会合に出席し、同問題に関するリトアニアの経験を共有し、若年層失業対策はEU議長国リトアニアの優先事項と発言。

【3日】プトケビチュウス首相は、当国訪問中のヘイダロフ・アゼルバイジャン・エネルギー大臣と会談し、緊急事態の回避に関する相互協力協定、経済面での二国間協力等について協議。

【4日】リンケビチュウス外相は、エジプト情勢を懸念し、暴力の停止と自由公正な選挙の実施を要請する声明を発表。

【5日】グリボウスカイテ大統領は、当国訪問中のバローゾ欧州委員長及び欧州委員と会談し、リトアニア議長国の優先事項につき協議。欧州議会、欧州委員会及び欧州理事会の緊密な協力の重要性を強調。

【8日】プトケビチュウス首相は、当国訪問中のグルエフスキー・マケドニア首相と会談し、2国間関係、マケドニアのEU及びNATO加盟への展望について協議。

【9日】グリボウスカイテ大統領は、ヤヌコーヴィチ・ウクライナ大統領と電話会談を行い、東方パートナーシップ首脳会合への参加を招請すると共に、EU・ウクライナ連合協定の署名にはティモシェンコ前首相の処遇や恣意的司法の問題において解決に向けた具体的進展が必要と強調。

【11日】グリボウスカイテ大統領は当国訪問中のガウク独大統領と会談し、2国間関係、リトアニアのEU議長国、エネルギー及び文化交流について協議。両大統領は相互叙勲を行い、12日には両国ビジネスフォーラムを開催した。

【12日】仏訪問中のオレカス国防大臣は、ジャン＝イヴ・ドリアン国防大臣と会談し、NATOやEU多国籍任務への貢献強化、NATOバルト領空監視ミッション、リトアニアのEU議長国優先事項等について協議。防衛安全保障協力に関する政府間協定に署名した。

【17日】ビリニウスでEU非公式環境大臣会合が開催され、解振華中国国家開発改革委員会副委員長もゲストとして出席し、気候変動問題等について協議。

【18日】プトケビチュウス首相は当国訪問中のダッチ・セルビア首相と会談し、セルビアの欧州統合プロセスを中心に協議。

【18日】グリボウスカイテ大統領及びプトケビチュウス首相は、当国訪問中のイヴァニシヴィリ・グルジア首相と各々会談し、二国間関係、グルジアのEU及びNATOへの統合希望、東方パートナーシップ首脳会合等につき協議。

【19日】国防省は、アフガニスタンのゴール県チャグチャランのリトアニア軍PRT駐屯地に対し、アフガニスタンと米国との2国間協定に反対する住民の抗議デモが発生したが、負傷者なく事態を收拾したと発表。

【22日】リンケビチュウス外相はEU外務理事会へ出席し、ヒズボラ軍事部門のテロ組織指定及びエジプトの迅速な民主化プロセス回帰の必要性を強調し、中東和平対話再開に向けた米国の取組を歓迎。

【22日】リンケビチュウス外相はEU東方パートナーシップ外相会合へ出席し、ビリニウス首脳会合の重要性を強調し、ウクライナとの連合協定署名及びアルメニア、グルジア、モルドバとの連合協定へのイニシャルを達成するために残された時間内で最大限努力すると発言。

【25日】リンケビチュウス外相はセルビアを訪問し、ステファノビッチ国会議長、ダッチ首相、ムルキッチ外相他と各々会談し、セルビアのEU加盟交渉開始及び隣国との関係改善を歓迎。

【26日】リンケビチュウス外相はコソボを訪問し、サチ首相、ホジャイ外相他と会談。EU・コソボ安定化連合協定交渉の開始を歓迎し、隣国との関係改善の重要性を強調。

【29日】グリボウスカイト大統領及びリンケビチュウス外相は、当国訪問中のアイデ・ノルウェー外相と各々会談し、エネルギー、ノルウェー・EU関係、両国関係及びEU東方パートナーシップ首脳会合に向けた準備について協議した。

【29日】リンケビチュウス外相は当国訪問中のブルクハルター・スイス外相と会談し、EU・スイス関係、二国間関係等について協議。

【31日】グリボウスカイト大統領は当国訪問中のペレス・イスラエル大統領と会談し、両国間の協力、ホロコースト及びナチによる犯罪の評価等について協議し、中東和平プロセスの再開を歓迎。ビリニウス市よりペレス大統領へ名誉市民称号が授与された。

経 済

【8日】リンケビチュウス外相は、ワシントンで米・EU間の環大西洋貿易投資パートナーシップ協定の第1交渉が開始されたことを歓迎する声明を发出。

【9日】プトケビチュウス首相及びシャジュウス財務大臣は、EU財務相会合でラトビアのユーロ導入が最終決定されたことを歓迎する声明を发出。

【10日】ミリウス・リトアニア食品衛生・動物検疫局長は、ベラルーシのアフリカ豚コレラ発生への対策のために、欧州委員会に1,350万ユーロの資金協力を要請したと発表。

【15日】ノリエキエネ新経済副大臣が就任。グスタス経済大臣とは旧知で、内務省時代に一緒に働いた経験がある。

【17日】グリボウスカイト大統領及びプトケビチュウス首相は、当国訪問中のラガルドIMF専務理事と各々会談。ラガルド専務理事はリトアニアの経済危機からの回復を賞賛し、ユーロ導入への支持を表明。

エネルギー(含むビサギナス原発プロジェクト)

【1日】ネベロビッチ・エネルギー大臣は、ウィーンで開催された原子力安全保障に関する国際会議へ出席。天野IAEA事務局長と会談し、ビサギナス原発プロジェクトについて協議した。

【10日】グリボウスカイト大統領は、大統領就任4周年に際し実施した記者会見で、政府がビサギナス原発に関する第三者の調査や意見を待つべきではないと述べ、リトアニアは戦略的決定を自ら行う必要があると政府の対応を批判。

【18日】田中日立製作所副社長が来訪し、ネベロビッチ・エネルギー大臣と会談。22日付当国週刊誌は、プトケビチュウス首相が田中副社長と会談を行わなかったことを批判する論調記事を掲載。

【22日】プトケビチュウス首相は、VAE社が2011～12年に締結した外国人法律専門家との雇用契約が公共入札法に違反する可能性があるとして、検察に捜査を要請。

【25日】欧州復興開発銀行は、2012年12月以来続いていたイグナリナ原発廃炉作業に対する資金援助の凍結解除を決定。

【26日】ベラルーシ政府はイグナタビチュウス駐ベラルーシ・リトアニア大使を召喚し、ベラルーシ原発に対するリトアニアの公式な立場について批判。

日本との関係

【6日】グリボウスカイト大統領は、ミンダウガス大公戴冠記念日に際し開催された叙勲式で、アフガニスタンにおける日本・リトアニア協力への貢献を称え、小菅駐ヨルダン大使及び廣木前ニューヨーク総領事への叙勲を実施。

【17日】経団連ヨーロッパ地域委員会一行が当国を訪問し、グリボウスカイト大統領、プトケビチュウス首相、リンケビチュウス外相及びトレチョーカス経済副大臣と各々会談。二国間の経済関係の強化、日EU・EPA、日本企業のリトアニアへの投資促進、エネルギー問題等について協議した。リトアニア産業連盟は、経団連一行及び白石大使との昼食会を開催し、二国間の経済関係強化に向けた期待を表明。17日及び18日付当国経済紙は、経団連一行のインタビュー記事を大きく掲載した。

【17～18日】ビリニユスで災害時の大規模避難に関するワークショップが開催され、四日市内閣府政策統括官(防災担当)等が出席した。

【25日】ビリニユス大学アジア研究センターは、20年に亘る当国での日本語教育促進の功績を認められ、平成25年度外務大臣表彰の受賞が決定。

【24日】当館は2012～13年日本・リトアニア俳句コンテストの表彰式を開催し、白石大使からリトアニア語部門年間最優秀作品の作者ルネツカス氏へ表彰状及び記念品が贈呈された。

この資料は、リトアニアの政治・経済情勢を中心に各種報道、発表をとりまとめたものですので、記載事項の信憑性まで確認したものではありません。

記載事項は在リトアニア日本大使館の見解を示すものではなく、特定の団体・個人の利益を代表するものではありません。